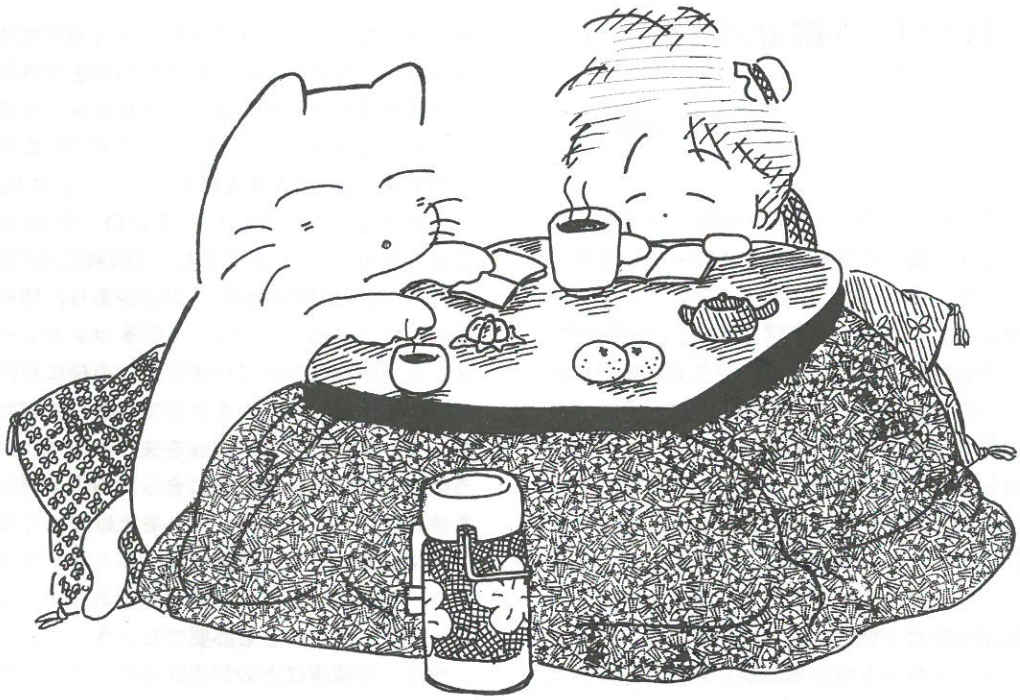
ISSN 0289—9302

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN

KOΣMOΣ

コスモス No. 92 1991 冬

特集 雑誌と気軽につきあおう



松本照美さん画（文学部中国哲学科１年）

特集

雑誌と気軽につきあおう

図書館にはどれだけの雑誌があると思いますか？　白山，朝霞，工学部の３館合わせると6,182タイトルの雑誌を受け入れています。（平成元年度末現在）

普段あまり目に触れないので忘れられがちですが，雑誌は最新情報の宝庫。これを利用しない手はありません。狙いを定めて探すもよし，書庫に入って片っ端から当るもよし。自分にあった雑誌を見付けだしてください。

未来からの留学生である皆さんは，本からはファンダメンタルな知識を，そして，雑誌からはトレンドな情報を吸収してほしいと思います。それらがフュージョンしたとき，新しい何かが生まれるかも……

ア・ラ・カルトで おいしい雑誌を探そう

清澤文彌太

生まれてこの方，生活や勉強での雑誌とのつきあいは，誰でもたくさん持っている事でしょう。我々の世代にとっては，「キンダーブック」「めばえ」「小学○年生」「中学時代」「蛍雪時代」などなつかしい月刊誌の名前が思い浮かびます。これらの雑誌は，それぞれの年代に合ったいろいろな内容とたくさんの付録がついて，１冊あれば１ケ月は楽しめた定食型の雑誌がほとんどでした。しかし，現代っ子にはこれらの雑誌はあまり人気がなく，代ってコミック誌，ファッション誌，受験情報誌など個性化，多様化されたいわゆるア・ラ・カルト型の雑誌が企画され，月刊ばかりでなく週刊で発行されて，人気を得ているようです。この様な傾向は，専門誌や大衆誌にも見られ，雑誌の氾濫の世の中になっています。

更に最近は，同じ専門分野の中でも読者を階層化して，入門者向け専門誌から高度な知識を持ったエキスパート向け専門誌まで各種の雑誌が発行されています。コンピュータ関係を例に挙げますと，パソコン入門者には「Ｏｈ・ＰＣ」「ＡＳＡＨＩパソコン」など，初心者には「ＡＳＣＩＩ」「Ｉ／Ｏ」中級者には「ｂｉｔ」「ＰＩＸＥＬ」上級者には「情報処理(情報処理学会誌)」などがあり，情報誌として「日経パソコン」「日経コンピュータ」などが発行されています。この様に専門雑誌も細分化されていますので，**難しすぎたり，易しすぎたりして興味を失う事のないように，初めは自分の知識に合った内容の雑誌を読みながら少しつづレベルを上げていく事を薦めます。**また，雑誌は単行本と違って１冊で内容が完結しない場合が多くありますから，続けて読むことも必要でしょう。

倉庫・貯蔵庫などの語義から転じて「知識の庫」を意味する英語の「ＭＡＧＡＺＩＮＥ」が示すように，雑誌にはたくさん雑多な知識が詰っていますので気軽に楽しんで読みながら，最新の知識と情報を身に付けて下さい。

（工学部助教授　きよさわ・ふみやた）

気軽につきあう雑誌とは？

内木　哲也

皆さんは，雑誌というとどんな書物を思い浮かべますか。私は，ＫＩＯＳＫやコンビニなどで売っていて電車の吊り広告に登場するような週刊誌やマンガなどを考えてしまいます。つまりこれを強引に定義するならば，①内容が流行的であり，②読んだら捨て，③１週間後にはほとんど売り切れ，④図書館にはほとんど常備されず，⑤美容院や病院の待合室でバックナンバーにお目にかかれる，というような性質を持った書物といえるでしょう。こんな私ですから，今回の「雑誌と気軽につきあおう」というテーマを図書館が取り上げたことと，その原稿依頼が来たことに対して大変驚いたのは言うまでもありません。考えても見て下さい，こういう定義に当てはまる雑誌と「気軽につきあっていない人」がいるでしょうか？　例えば，机に向かって辞書を片手に鉛筆なめなめ，ノートに向かってスピリッツを読んでいる姿を！

こんな私と同じ様な気持ちを抱いた方も多いと思いますが(私だけでしょうか？)，これは雑誌＝娯楽誌という思い込みの強さの現れと言えるでしょう。落ち着いて考えてみれば，雑誌には週刊，月刊などの発行形態や論文誌，娯楽誌などその内容によって多くの種類があり，図書館にも色々な雑誌があります。その中で私が特によくつきあっている雑誌は，専門分野の学会誌と論文誌で，これらとのつきあいは決して気軽なものではありません。しかし，このような雑誌は自分の専門に磨きをかけるのには大いに役に立ちますが，**発想の転換や新たな着想をするにはもっと幅広く，易しく書かれた雑誌が大いに役に立つものです。**私も博士課程の学生時代，Scientific American という一般向けの軟らかい科学誌の論文に刺激されて，それまでの研究の視点を変えることができたという経験があります。皆さんも，①軟らか過ぎず，②硬過ぎず，③視点が広く，④中身が充実した，こんな雑誌と気軽につきあってみては如何でしょう。

（経営学部講師　うちき・てつや）

気軽に付き合う雑誌たち

手塚　洋一

皆さん，月に何冊くらいの雑誌を読んでいますか。「気軽に使える雑誌たち」というテーマでＫＯΣＭＯΣの原稿を書けという命令？　をうけ，朝霞の図書館に行ってみました。雑誌コーナーにはやまてこ雑誌が並んでおります。こんなに雑誌があるものかと改めて感心しながらいつも見ている（けっして読んでいるのではない）雑誌を探してみました。

文科系の大学なので科学雑誌はあまりないだろうと予想したにもかかわらず，「パリティ」，「数理科学」，「Nature」など９種類も置いてありました。これらに研究室の専門の雑誌を含めると，なんと四十数種類。週刊で発行されているものもありますから一ケ年で五十何冊かになります。一日に約２冊の雑誌に目を通し，その合間？に講義をし，テニスをして酒を飲む。冗談じゃない，これでは研究の時間が無い。こんなに雑誌が多いということは，いかにまともに読んでいないかということの証明でもある。私にとっては「気軽に使える雑誌たち」ではなく，すべての雑誌が「気軽に付き合う雑誌たち」である。

雑誌と気軽に付き合う一番の方法は中身を読まないことである。タイトルから（本当は著者名からも）内容を想像し，アブストラク

トでそれを確認する。そして読む価値がありそうだと判断した記事だけを読む。ただし大切な記事を読み落すという事故も時々ある。

この原稿を読んでいる奇特な方，タイトルから内容が想像できましたか。皆さんが文章を書く時にはぜひとも正確に内容を予測させるようなタイトルを付けるようお勧めします。

図書館にある科学雑誌のうち何冊くらいを知っていますか。タイトルもアブストラクトも読む暇がなかったら，せめてニュース欄やトピックス欄だけでも目を通してください。それだけでも科学の雰囲気は伝わってくるでしょう。

（文学部助教授　てづか・よういち）

ある読書会のこと

横川　伸

私もメンバーになっている「人民文学を読む会」という会がある。

会の名称はいささか仰々しいが，実はごく普通の読書サークルであり，「人民文学」という言葉も中国の代表的な月刊の文学雑誌名に由来する。

毎月１回の例会がこの会の主な活動である。中国に興味をもつ人たちが，目的はさまざまであるが一堂に会して，作品について話し合い満足して帰る，これが例会である。

会員は中国文学研究者の外に，商社員，教員，大学生，フリー通訳，郵便局や図書館の職員，主婦，留学生……と，顔ぶれは多彩である。なかには，中国関係の職場に移ったので雑誌を読み始めたという人もいれば，昔の中国での生活が懐しくて小説を読むという人もいる。

発表の仕方も学会では見られないユニークさがある。せっかく学んだ中国語を忘れないように雑誌を読んでいる，と言っている会社員の発表は語学研修型であるし，すでに訳書を世に送り出している翻訳者は，日本語に訳した作品を朗読してくれたりする。結論として，「実につまらぬ小説であった」と結ぶ発表者も決して少なくはない。討論は討論で，文学論議がいつの間にか中国論議になっていたりすることもしばしばである。

この「読む会」は1976年１月に雑誌「人民文学」が復刊されたのを切っ掛けに作られたので，まもなく16周年目を迎える。この間，180カ月分の雑誌を読んだことになる。当初は学生だったのが，今では中国文学の研究者として活躍中という人もいる。このように，**会が長続きした秘けつは，会員が各々の目的をもって会の活動を積極的に利用し，活動を楽しんでいるところにある。**

とりわけ私が感心しているのは，会員が実に気軽に「人民文学」とつきあっていることである。

（文学部助教授　よこかわ・しん）

（注）本文中，ゴシック体は編集委員会で付けました。

≪表紙の絵≫

新年あけましておめでとうございます。

皆さんはどんなお正月を過ごされましたか。スキーに行ったり，ラグビー観戦に，とアクティブに過ごした人もいるでしょう。ひょっとすると，おこたで寝正月の人が一番多かったりして……。そんなニッポンのお正月を楽しいマンガにしてくれたのが，中哲の１年生松本照美さんでした。編集委員一同，おもわずニコッです。

アメリカの大学図書館にはピロールームといって，ゴロッと寝ころんで本を読める部屋があります。日本にもこたつのある閲覧室があればいいのに！なんて思いつつ，図書館は１年で一番忙しい季節を迎えました。

苦しいときの図書館頼み。試験勉強は図書館へどうぞ。

《インタビュー》編集長に聞く

雑誌を編集者から見てみれば

ゲスト　木内　晃さん
（現編集長・社会学部３年）
根岸哲也さん(元編集長・本学職員)
聞き手　コスモス編集委員会

世の中には数多くの雑誌が溢れています。皆さんは，その中から自分の感性にあった雑誌や興味がある記事が載っている雑誌を選んでいると思います。そのとき，編集者を意識することはあまりないでしょう。「編集者がどのような意図で雑誌をつくっているのか」を知ることで，雑誌とのつきあい方も変わってくるに違いありません。

そこで，私たちにとって身近な雑誌であるキャンパスストリートの編集長に聞いてみました。

○――○――○――○――○――○――○

Q：読んでもらうための工夫は？

A：『学生のための学生による情報誌』としてスタートしましたから，読んでもらうためにも，学生（読者）の視点から考えるということを意識しています。取り上げる話題にもよりますけど，堅苦しくならないようにはしているつもりです。

Q：編集していくうえでの苦労は？

A：編集スタッフの価値観の違いをどう表現するかですね。男女のものの見方の違いを感じることが多いですよ。でも，そのおかげで企画が膨らむこともあります。

Q：何か影響を与えたと感じることは？

A：履修特集なんですが，11年前の創刊当初は「単位が取りやすいどうか」にポイントがありましたが，今は「いい授業とは？」という点に変えました。そのせいか，記事を読んで授業内容を変えた先生がいたと聞いてうれしかったですよ。

Q：読者の反応は気になりますか？

A：ええ，当然のことですが。でも，今のところ読者とのコミュニケーションは皆無に近いですね。精々，友だちからの感想を聞くといった程度ですから。「読者が雑誌を育てる」ということもありますし，出来るかぎり反応は知りたいですね。

Q：どういう人に読んでほしいですか？

A：ひとりでも多くの学生，教職員の方に読んでほしいですね。とりわけ，東洋大学に関心をもっている学生には読んでほしいと思っていますし，私たちも，そのための努力をしていきますので……。

Q：編集者からみて面白い雑誌は？

A：そうですね。特にはありませんけれど，企画によっては参考にさせてもらってます。スタッフによっては，文章を見れば影響を受けている雑誌がわかる人もいますよ。

それから「女性誌を読む奴はできる」と言われてるんですが，それは色々な物の見方や柔軟性の大切さだと理解してます。

Q：最後に，これからのキャン・ストは？

A：「東洋大学らしさ」を誌面に生かしていきたいと思います。

≪ありがとうございました≫

蔵書探訪 4

重松俊章旧蔵書紹介

山内　四郎

著名な東洋史学者で，真言宗豊山派の僧侶でもあった，重松俊章氏は明治16年愛媛県の産であり，本学には同39年より，42年までの3年間在学している。同年東大史学科に進み，大正2年卒業，同7年豊山大学教授となり，同9年旧制松山高校教授に就き，昭和2年には九州帝国大学教授に任ぜられ，初代の東洋史学講座の教授に就任した。[注1] 同19年退職後，郷里の松山商科大学教授をつとめ，同時に四国霊場51番熊野山石手寺の住職となった。[注2] 卒年月日は同36年10月6日である。その死去に及んで「学識は古今東西にわたって視野極めて広く」と絶賛を博している。[注3]

研究領域は，西域文化から，東亜古代の民俗学的研究をはじめ，白雲宗門，マニ教徒，弥勒教徒，白蓮教徒，紅巾軍など宗教的反政府勢力研究の開拓者[注4]と言われている。

蔵書がその研究分野を反映していることは事実であるが，九大在職時代は研究室に備付ける図書を受入れる際，同一書を二種類購入し，一種を自分の所蔵としたと言われている。したがって，東洋学の各分野にわたっており，主流をなす漢籍についてこれを言えば，経・史・子・集・叢書に及び均衡のとれたものになっている。最初の受入日は，昭和41年6月7日となっているので，その若干前に本学の有に帰したものと推定される。

内容は和漢書7,807冊，洋書324冊，（内訳英語約半数，ドイツ語80冊余，フランス語50冊余，ロシア語1冊）に上っている。

この図書群は，極めて精選されたものであり，一部の例外を除いて，文庫本，読物風のもの，抜刷(抽印本)，雑誌などは含まれていない。それ故，これをもって旧蔵書の全貌を窺えるものとは言えない。

漢籍には随所に朱が入れられ，和書・洋書もいたるところに書き込みがあり，並々ならぬ研鑽のあとがしのばれる。

次に主要なる図書について述べる。最も古いものに「陶宗儀の輟畊録」（K042：TS-3）がある。本人は元（1271—1367）本と記している。序文には至正26（1366）年とある。しかし，跋文には明の成化5（1469）年との記年がある。重松氏は版本に極めて詳しい人物であり，[注5] 根拠のない事を記したとも考えがたい。版木は数百年の保存に耐えるものであり，後々に印刷されることも少なくない。これを後印本（後刷り）といい，このとき印刷時の年号を附刻することもあり得る。おそらくはこのことを意味しよう。この図書の主要収蔵機関における所蔵状況をみると，東洋文庫は，明の万暦（1573—1619）年間刊本，明末汲古閣本と民国12（1923）年刊本を所蔵している。東大東洋文化研究所は，明刊（刊年不明），内閣文庫も同様であり同時に和刻本をもつ。京大人文科学研究所は民国になって影印された元本（景元本）をもち，尊経閣は津逮秘書の端本（零本）を有し，東北大は，清(1616—1911)刊を有するのみである。まさに本書は極めつきの希覯書と言わなければならない。次に「楊慎の丹鉛総録」万暦16(1588)年序刊（042：YS－2：2）がある。東大東文研，京大人文研はともに所蔵せず，静嘉堂，尊経閣は嘉靖（1522—1566）年刊をもつ。「国語の閔齊伋注」万暦47（1619）年跋刊（222.033：IS）は，静嘉堂，尊経閣，内閣文庫，東洋文庫，京大人文研の目録にその著録がなく，東大東文研に有するのみである。「高岱の皇明鴻猷録」万暦47（1619）年序刊（222.058：KT）は，東大東文研，京大人文研，東北大ともに所蔵せず，内閣文庫と尊経閣は万暦刊をもち，東洋文庫は影印本を蔵する。「続資治通鑑綱目」成化12（1476）年序刊（222.053：Z）は，一部に補刻があり完本ではない。東大東文研，京大人文研ともにない。この種の図書は史料価値が低いせいでもあろうか。東洋文庫，静嘉堂は朝鮮本をもち，尊経閣は明刊とあるが刊年を記さ

ず，東北大は嘉靖14（1535）年刊本を有する。「鄭曉の吾学編」万暦27（1599）年跋刊（222.058：TG）は，京大人文研は明刊はなく，東大東文研は有缺本のみを有する。尊経閣，内閣文庫，東洋文庫は隆慶元（1567）年刊を有し，静嘉堂は明刊とし，刊年不詳であり，東北大は隆慶本の影印を蔵する。「王常編の集古印譜」万暦3（1575）年序刊（739.8：OJ）は，東大東文研，京大人文研，東北大ともになく，静嘉堂，尊経閣ともに明刊をもち，内閣文庫も同様であるが本館蔵と同様朱印本なる旨を明記する。「冊府元亀」崇禎15(1642)年序刊(032.2：S：2)は，静嘉堂は宋版の端本を有し，東大東文研，東北大のものは本書と同一のものと思われるものがあり，尊経閣，内閣文庫は明代写本があり，京大人文研は嘉靖9年より19年までの間の写本を有する。「薛應旂の宋元通鑑」天啓6（1626）年序刊は，尊経閣に嘉靖版と和刻本を有し，京大人文研，東北大と東洋文庫は和刻本のみであり，静嘉堂，内閣文庫は同年刊をもち，東大東文研は所蔵しない。「王明清の揮麈前録，後録，三録，余話」（222.053：OM：2）は，崇禎（1628—1643）年間毛氏汲古閣刊行の津逮秘書の端本である。「潛確居類書」（K032.2：S—3）も同様である。両書とも重松氏による明本との朱書がある。刊年の明示はないが，明刊と推定されるものをあげると「邵伯温の河南邵氏前録，後録」（222.053：SH）がある。これも津逮秘書の端本である。この叢書は比較的に広く現有し，静嘉堂，内閣文庫，東洋文庫，東大東文研，京大人文研などが所蔵し，東北大は民国11（1922）年序刊の全書を有す。「徐応秋の玉芝堂談薈」（042：JO）は，東大東文研，京大人文研はともに信安徐氏蒔園刊本（原刻本）をもち，内閣文庫には康熙42（1703）年序刊があり，静嘉堂は清刊二種をもち，尊経閣には所蔵しない。「王楙の野客叢書」（042：OB：2）は，内閣文庫，東大東文研は嘉靖41（1562）年を有し，静嘉堂は嘉靖刊とのみ著録し，他に承応2（1653）年刊の和刻本を有し，尊経閣も同書をもち，京大人文研，東北大は単行本を所蔵しない。

仏典は，当時和刻本が数多く存在したにもかかわらず，唐本（白文）が大部分である。これも，氏の漢文読解能力が抜群であった証左と言えようか。いずれにしても，当図書群の特色の一つと言える。

具体的紹介は，主として明版のみを挙げるに留まったが，宋版こそ持たないが，個人の蔵書として極めて質の高いものであると言えよう。

注1．自筆履歴書コピー（原本文部省蔵）

注2．「アジア歴史事典」日野開三郎氏執筆。「日本人名大事典」長沢和俊氏執筆。共に平凡社刊。

注3．「史淵」第87輯巻頭『名誉教授重松俊章先生御逝去』九州大学文学部史学科，昭和37年3月5日刊。死に際しての過褒はありがちな事ではあるが，単なる虚構とは言えないと思う。〔ポートレートあり〕

注4．注2前掲書

注5．和田吉人氏の教示による。

（図書館事務部次長　やまうち・しろう）

編集部注：書名の後のカッコ内の記号は，白山の図書館の請求記号を表わします。

輟耕録封面（扉）

図書館 あ・ら・かると

★お知らせ★

卒業される方へ

卒業された後も校友として引き続き本学図書館を利用することができます。

利用する際には，まず卒業証明書（卒業証書は不可）を１通カウンターに提出して下さい。それと引き換えに「図書館利用カード（校友）」をお渡しいたします。なお，証明書は１度提出して下されば，毎年提出する必要はありません。

手続きは，いたって簡単です。

図書資料だけではなく，視聴覚資料についても利用でき，貸出しもいたします。若干の点を除けば，在学している時とほぼ同様にご利用になれます。

詳しいことはそれぞれの館のカウンターでおたずね下さい。

★開館時間等の変更について★

学年末から新学期にかけて，学年末試験，入学試験，春休みなどにともない，開館時間等が一部変更になります。

主な変更点は，学年末試験期には休日開館を実施したり，開館時間を延長いたします。また，資料の館外貸出を制限する場合があります。春休みには長期間の貸出，貸出資料の点数が増えたりします。

開館時間等の変更は，それぞれの図書館で異なりますので，掲示や配布をする利用のしおりなどをご覧下さい。詳しいことはカウンターでおたずね下さい。

★工学部知る知る見知る★

教職員閲覧室にＮＥＣ ＰＣ-9801ＲＸが入りました。Ｉ/Ｏ、アスキー等についてくるフロッピー使用，視聴覚資料のFilie Master Ⅱ、館内閲覧になっている「Fortan 77 数値計算ソフトウエア」「パソコンで学ぶ初等数学１，２」などの利用にご活用ください。

なお，教職員閲覧室ご利用の際はカウンターに一声かけてください。

★朝霞知る知る見知る★

雑誌誌名目録・本学専任教員（教養課程）文献目録ができました。場所は２Ｆカウンター脇のカードボックスです。ご利用下さい。

★白山知る知る見知る★

白山でもＣＤ-ＲＯＭ対応パソコン（ソニー Quarter L）を設置しました。ＣＤ-ＲＯＭは現在，Ｊ-ＢＩＳＣ（書誌情報），リーガルベース（判例全文）の２種類ですが，順次，増やしていく予定です。利用の詳細についてはカウンターまで。

『妖怪学の世界』について

井上円了記念学術センターの主催で『妖怪学の世界――東洋大学 哲学堂文庫より――』が白山キャンパスでも開催されます。会場は図書館３階第１閲覧室前で，期間は１月12日（土）から18日（金）まで。また，21日(月)からは甫水会館３階井上円了記念室でも展示が予定されております。

この展示には，井上円了博士が収集した哲学堂文庫の中より，妖怪学関係のうち未翻刻で一般には知られることの少ない資料が選ばれております。

なお，工学部分館では昨年12月４日（火）～10日(月)，朝霞分館では同12月12日(水)～18日（火）の日程で開催されました。

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN ΚΟΣΜΟΣ
1991 冬 (No.92) 1991年１月10日発行 編集：コスモス編集委員会 発行人：山崎正巳 発行所：東洋大学附属図書館 〒112 東京都文京区白山５丁目28番20号 Tel. 03(3945)7314 ©東洋大学附属図書館 1991